

「富士に学べ」



令和6年10月3日

『令和6年度全国学力・学習状況調査結果』

4月18日（木）に、中学3年生を対象に、国語・数学の全国学力・学習状況調査が行われました。文部科学省や教育委員会、学校が、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが目的です。

この調査は、「教科に関する調査」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。「教科に関する調査」では知識・技能、思考力・判断力・表現力等が、相互に関係し合いながら育成されるものという現行学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎知識と活用力を一体的に問うように構成されています。

☆本校の調査結果と課題☆

1 国語から

【国語（学習指導要領の内容）の平均正答率（%）】

学習指導要領の内容	富士中	全国（公立）
言葉の特徴や使い方に関する事項	61.7%	59.2%
情報の扱い方に関する事項	64.4%	59.6%
我が国の言語文化に関する事項	72.7%	75.6%
話すこと・聞くこと	58.5%	58.8%
書くこと	66.6%	65.3%
読むこと	50.9%	47.9%



【令和6年考察】

国語では、静岡県及び全国の平均正答率をやや上回る結果となりました。「我が国の言語文化に関する事項」の問いは、行書の特徴を踏まえた書き方について説明するものでした。

個別の問題を見てみると「本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する」問いや「話し合いの発言について説明したものとして適切なものを選択する」問いに対して、無解答率が低く、県・国の正答率に比べ、6ポイント近く上回っていました。しかし、「必要に応じて質問しながら話の内容を捉える」問いに対して10ポイント近く下回るものもありました。また、全体的に記述式の問いに対して正答率は県・国の正答率よりも5ポイント近く上回っているものの、無解答率も10%を上回る結果となりました。このことから、「文章と図、意見と根拠など、情報と情報の関係を捉えて内容を理解する力や適切なものを選択する力」は高いと言えますが、「相手の言うことを理解し、伝えたいことを明確にする力」には課題があると言えます。

学習指導要領で示されている「思考力、判断力、表現力等」の3つの力の中で表現力を高めていく必要があると考えます。今後は、表現のもつ効果について考えながら様々な文章を読み、そこで蓄えた知識をもとに自分の考えを伝えたり、文章を書いたりして、表現力を高めていけるような授業をしていきます。



2 数学から

【数学（学習指導要領の領域）の平均正答率（％）】

学習指導要領の領域	富士中	全国（公立）
数と式	57.3%	51.1%
図形	43.4%	40.3%
関数	62.2%	60.7%
データの活用	55.0%	55.5%



【令和6年考察】

数学では、「数と式」「図形」「関数」の3つの領域で全国平均を上回る結果となりました。特に、「数と式」の領域では、全ての問題で全国平均を大きく上回り、数と式の基礎的な知識や技能が身に付いていることがわかりました。「データの活用」の「2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める」問いでは、県・全国の平均を6ポイント程度下回り、確率を求めることに課題があることが分かります。

個別の問題では、『等式 $6x + 2y = 1$ を y について解く』問いは、等式を目的に応じて変形することができるかどうかをねらいとした問題でしたが、県・全国の正答率に比べ10ポイント近く上回りました。一方で、無回答率は多くの問題で県・全国の平均より高く、特に、問題解決の方法や事象を数学的な知識や表現を活用して説明する問題においては、無回答率が県・全国の平均より4～8ポイント高くなりました。このことから、多くの領域で基礎的な知識や技能が身に付いている生徒の割合が高い反面、基礎の定着が不十分な生徒が一定数いることが分かります。また、数学的な見方や考え方ははたらかせて、既習の知識や技能を活用し、数学的に説明する力に課題があることも明らかです。今後は、個やグループの学びを通して仲間と学び合いながらより一層学習内容の定着を図り、対話を通して、数学的な思考力や表現力を高める授業を展開していきます。

3 生徒質問紙から



- 授業の時間以外に1時間以上学習する人は全体の約71%であり、令和5年度とほぼ同様でした。令和6年度前期の学校評価では「授業の内容が理解できている」の項目で「できてる」「まあまあできている」と回答した生徒の割合は82%であり、学校外での学習にも裏付けられていると推察されます。また、「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」の項目では約87%の生徒が「あてはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答しています。一方、「1、2年生に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫した」と回答した生徒は約50%にとどまっています。「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることがある」と回答した生徒は約87%であったため、学級の仲間と協働的に学び合う機会を授業の中で作り、課題解決に主体的に取り組み、学んだ内容や自らの考えを表現できる授業を生徒と共に作っていきます。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」は約97%、「人の役に立つ人間になりたい」は約98%、「人が困っているときは進んで助けていますか」は87%の生徒が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」に回答しました。また、およそ84%の生徒が「自分にはよいところがある」と回答しています。多様性を受け入れ他者の立場や考えを尊重しつつ、予測不能な社会でよりよく自己実現できる力を、これからも育てていけるようにします。
- 1日でゲームを4時間以上する生徒の割合は約22%、2時間以上を含めると約33%に上ります。また、SNSや動画視聴に費やす時間は、4時間以上が約25%、2時間以上を含めると約42%でした。携帯電話やスマートフォンの使い方について保護者の方との約束を「しっかり守っている」「だいたい守っている」と回答した生徒は約62%でした。スマートフォン等の長時間の利用には様々なリスクが指摘されています。今一度、ご家庭でお子様と話題にしてみてください。